

【西洋史学専攻】

<教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）>

西洋史学専攻では、古代から現代までのヨーロッパやアメリカなどいわゆる西洋世界、およびそこから強く影響を受けた地域の過去を学ぶことを通して、現代の「国際社会」の多くの側面を構成する「価値観」を理解するために十分な知識を獲得すること、そのために自ら主体的に情報を収集し、それを学問的に分析するために必要な外国語能力と学問の方法論を身につけること、また歴史学を通して現代社会を見つめる多角的な視点を得ることを目的として、下記のようなカリキュラムを編成している。

1. 西洋世界の過去についての概説的な知識を得るために、必修科目として「西洋史概説 I～VI」の全てを履修し、また選択必修科目「西洋史特殊(A)～(J) I・II」の履修を通して、その中にある多様性や多重性への理解を深める。
2. 外国語については、学部の定める必修語学の授業に加えて、第2学年の進級条件科目である「原典講読 I・II」において、英語で西洋史学の学術文献を講読する力を習得し、さらに第3学年の進級条件科目である「西洋史演習 I・II」において、英語以外のヨーロッパ言語（ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語）のいずれかで文献を講読する力を習得する。
3. 第2学年での履修が奨励される必修の講義科目「史学概論 I・II」を通して、歴史学の理論と方法論の基礎を学び、歴史学そのものについて考える機会を持つ。また、選択必修科目である「日本史概説」および「東洋史概説」の履修を通して、より広い文脈の中での歴史への理解を深める。
4. これらの概説的な講義科目や外国語演習科目で得た知識や能力を基礎として、さらに特定の地域・時代を専門的に研究し、学問研究の方法を実践的に学ぶために、第3学年と第4学年の中心科目として「西洋史研究会 I～IV」（いわゆるゼミ）を履修する。
5. セミナー形式の討論や定期的なレポートの添削など、担当教員によるきめ細やかな個人指導を受けながら、3年間の専攻での勉強の集大成として卒業論文を作成する。
6. 歴史学が人間の生の全ての面を対象とする学問であることを鑑みて、大学設置の全ての専門科目が専門選択科目単位として認められているので、専攻の必修科目を中心としながらも、各自が興味と関心に合わせて自らの学際空間を設計することが可能である。